木材による新たな価値の創造の起点となる「ウッドデザイン賞」

～コンセプトブック発刊によせて～

先ずは「ウッドデザイン賞２０１６」に対して、多くの皆様方の参加、応募を頂けましたこと、厚く御礼申し上げます。

「ウッドデザイン賞」は、木づかい運動の一環として、木材を活用した様々な取組を幅広く表彰するために、昨年度から始めたものです。この表彰を通じて、機能的に優れる木製品や建築物が普及していくことはもとより、木材を資源として活用し、地域の活性化につなげている取組が拡大していくことを期待しているところであります。

このため、表彰の対象としても、①地域や社会を活性化するもの（ソーシャルデザイン部門）、②暮らしの質を高めるもの（ライフスタイルデザイン部門）、③人の心と身体を健やかにするもの（ハートフルデザイン部門）の３つの観点・部門を設けているところであります。

今年度受賞に至った取組も、こうした趣旨に適い、独創的で新規性のあるものでありました。例えば、木製の電気自動車。これまで木材利用とは縁が薄かった自動車会社と木材利用の専門家との共同で開発されたとのことです。

また、針葉樹を用いた家具用板材。家具用材としては不向きといわれてきた軟質な針葉樹から、独自のプレス加工法により薄く強度があり且つ自然な色を残した板材を作ったとのことです。

最後に、森林浴のできるクリニック。透析治療を行う方々の負担感を軽減するため、木の癒し効果に着目し、木造・木質化した医療施設を設けたとのことです。

こうしたもの以外にも、今回、数多くの素晴らしい取組が寄せられました。

これらはいずれも、森林・林業・木材産業関係者のみならず、従来、木材が使われてこなかった分野の関係者が、それぞれの知見や技術を活かし、木材利用のフロンティアを切り開くものです。

今後の新たな木材需要の創出に貢献するものとなることを期待しております。

今後も、ウッドデザイン賞を通じて、木づかい運動がさらに国民生活に根付いた運動として発展していくこと、さらには新たな木づかいの可能性の広がりや、川上・川中・川下の連携の強化により、林業の成長産業化と独自性のある地方創生が実現することを期待しています。

平成29年２月
農林水産大臣　山本 有二

はじめに

このたび、「ウッドデザインコンセプトブック２０１６」を刊行する運びとなりました。

第２回の開催となる今回も各地域、多くの分野から卓越した作品に数多く応募いただきました。

消費者目線で新たな木づかいの取組を評価・顕彰する制度として、

幅広い関係者の参画を嬉しく思います。

本誌ではウッドデザイン賞２０１６の受賞作品を全点収録するほか、

審査委員のメッセージやセッション、本年度の振り返りなどを掲載しています。

受賞作品の特徴や開発に至ったきっかけ、ネットワークの作り方などは今後、

木づかいに携わるすべての皆さんの参考になるものと考えています。

本誌に収録された多くの企業、地域、団体やデザイナー、クリエイター、

技術者、研究者、ＮＰＯや教育機関が、ウッドデザイン賞を契機として新たな出会いを得て、

次のステージを作り上げていただくこと。それこそがウッドデザイン賞の目的です。

この人と会いたい、この製品が買いたい、ビジネスで一緒に組みたい、研究を依頼したい。

そんな方々からのアプローチをお待ちしています。

そして、その中から次のウッドデザイン賞が誕生することを心から願っています。

2　木材による新たな価値の創造の起点となる「ウッドデザイン賞」
4　ウッドデザイン賞２０１６を振り返る
6　審査委員からのメッセージ
8　セッション「ウッドデザイン賞が拓く新価値創造と新たなビジネス」
13　最優秀賞・優秀賞・奨励賞
27　入　賞
68　索　引
72　実施概要、受賞後の展開について
74　ウッドデザイン賞２０１５受賞後のアンケート結果、受賞者レポート
76　ウッドデザインサポート連絡会のご紹介
79　ウッドデザイン・パートナー・マークについて